

岡崎市議会議長 様

支出番号

会派名

代表者名

田口 正夫

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和 5年 3月30日提出

活動年月日	令和5年2月6日(月)～ 2月8日(水)	
氏名	田口 正夫	
用務先 及び 内容	1	用務先 岡山県 総社市
	2月6日	内 容 ごみ減量化事業について
	2	用務先 愛媛県 松山市
	2月7日	内 容 松山城と観光行政について
	3	用務先 高知県 高知市
	2月8日	内 容 観光行政について
	4	用務先
	月 日	内 容
備 考		



行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年2月6日（月曜日）
視察内容	ごみ減量化事業について（岡山県 総社市）
視察者	田口正夫

※ 総社市の概況

総社市は、人口約6万8千人、岡山県の南西部に位置し、東部は岡山市、南部は倉敷市の2大都市に隣接し、地域の中央を北から南に岡山県の三大河川のひとつ高梁川が貫流している、近年は岡山県南工業地帯の発展に伴い、宅地開発が進むとともに、その後背地として内陸工業も発展している、歴史に培われた吉備文化と高梁川の恵みをはじめとする豊かな自然環境を背景に、住宅都市・学園都市としての発展をみせています。瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた地域にある市です。



岡崎市の観光リーフレット等を渡す

※ごみ減量化事業について

平成18年にごみ袋を有料化してから、家庭ごみ排出量が平成20年度、21年度と2年連続で有料化前の20%以上の減量に成功。このことを受け、平成22年度に市指定ごみ袋の料金を半額にし、それ以降のごみ袋料金について市民と「ごみ袋変動相場制」導入の約束を交わした。

※市民との協働でごみ減量につながる取り組み

- ・「ごみ袋変動相場制」の導入
- ・6つのリバウンド防止策を展開
ごみ袋料金の再検討、ノーレジ袋とマイバック運動の推進、リユース事業の推進、生ごみのコンポスト化推進、雑誌の資源化推進、ごみ減量化に対する市民意識の高揚
- ・変動相場制導入して3年で家庭ごみの7.7%減量に成功したため、平成25年度にはごみ袋の料金を7.7%減額

※ごみ減量化各事業

「資源回収報奨金」

- ・自主的に資源ごみの回収活動を実施する「町内会」「PTA」等に対して報奨金を交付
- ・古紙類、繊維類、びん類、金属類その他再生資源類(ペットボトル、牛乳パック)を対象
- ・1kgあたり「8円」を交付

「雑がみ回収」

- ・お菓子の箱やプリント類など、資源化は可能だがごみで出されやすいものを拠点回収
- ・持参した重量に応じて、市指定ごみ袋と交換できる仕組み

「生ごみ処理容器購入補助」

- ・家庭に生ごみ処理容器を設置する者に対し、予算の範囲内において補助金を交付
- ・電気式生ごみ処理機、EMバケツやコンポストなどを対象
- ・購入金額の1/2(上限2万円)補助

「EMボカシ無料配布」

- ・ EMボカシを無料配布 1世帯あたり1月につき3袋まで
EMボカシとは・有用微生物を利用した発酵有機資材。1袋 300g。
生ごみ1kgに対して10~20g(ひと握り)を使用。

「生活用品交換銀行」

- ・ 家庭の不用品の再利用(リユース)を図る。
- ・ 広報誌やホームページで「ゆずります/もとめます」コーナーを運用。市が紹介する仕組み。
- ・ 元々は消費生活問題に関する事業(平成24年度にごみ減量化事業への移管)

「環境学校」

- ・ 総社市環境観光大使のアルピニスト野口健さんによる環境学校を毎年実施。
- ・ 市内小学校を対象に順次開催し、令和4年度では13校目の実施に至った。
- ・ 体験型学習と講演会で構成し、ごみ問題や環境保全についての意識づけを図っている

「環境出前講座」

- ・ 環境出前スクール・出前講座・外国人向け講座・パネル展示等の実施共催参画

※市民の声(評価・要望)について

有料化導入以降、一部の批判的な声は届くことがあるが、事業自体の大きな混乱や問題は生じていません。

総社市市議会による所管事務調査においても、予算規模は現状維持としつつ、改善し継続する旨の評価を受けている。

※現在の課題、今後の展開

ごみ袋変動相場制を基軸とした総社市のごみ減量化事業は、事業開始から経年や社会情勢の変化もあり、当初のような機運の高まりが実感されていないことが課題。一人あたりのごみ排出量も現在までの取り組み成果によって一定水準まで減少したが、現状では下げ止まりの状況となっている。

ごみ減量化には、行政による制度やハード面の整備も必要ではあるが、最も重要な要素は住民一人ひとりの意識改革や行動変容となります。さらなる取り組みの推進には、住民を巻き込んだ展開が必要になってきます。

☆新たな取り組みの模索

☆さらなる資源化の推進

☆新たな社会への適応



【岡崎市への反映】

家庭用のごみの減量化は喫緊の課題であり、ごみ減量化への取り組みは学区の社会教育委員会の加盟団体を始め各種の団体による資源回収に対する報奨金の増額等を実施して、市民と協働してごみ減量化を推進していく。

市民が自ら考え自ら行動し、少しでもごみの減量化を図って行くよう、市はそれらに関する施策を考え新たなごみ減量化ができるように考えていく。ごみ問題は多くの課題があり各市町も大変苦勞をしていると思います、本市独自のごみ減量化施策を早急に考えごみ減量を実施したい。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年2月7日（火曜日）
視察内容	松山城と観光行政について（愛媛県 松山市）
視察者	田口正夫

松山市の概況

松山市は愛媛県のほぼ中央にある松山平野に位置している、明治6年愛媛県庁が設置され、県都となり、明治22年12月15日市制を施行以来。政治・経済の中心都市として成長し、また、俳人正岡子規を始め、多くの文人を輩出するなど地方文化の拠点としての役割をはたしてきた気候は温暖な瀬戸内海気候で、全体に降水量は少なめで、穏やかで恵まれた気候条件である今日では総合的な都市機能を備え、平成12年4月には中核市へ移行し、平成17年1月には北条市・中島町と合併し四国初の人口50万人都市となる。

松山城は加藤嘉明が1602年から築城を開始し、完成までに約四半世紀を要した国内屈指の城郭で、「現存12天守」の一つである。天守をはじめ21棟が国の重要文化財に、また、堀之内を含む城山公園全体が国の史跡である。松山城の建造物は、平成30年度から令和4年度までの5年間にかけて、計画的に改修工事を実施している。平成30年度は天神櫓、令和元年度は北隅櫓・玄関・玄関多間櫓、令和2年度は南隅櫓・十間廊下、令和3年度は巽櫓、令和4年度は良門・同東続櫓を改修し、集客を計画している。

その他の観光地は、有名な道後温泉をはじめ多くの観光施設が存在する。平成26年に瀬戸内海国立公園指定80周年や道後温泉本館建設120周年、四国八十八カ所霊場開創1200年を迎え、官民一体で観光客を歓迎するムードを醸成しようと平成25年3月25日、「おもてなし日本一のまち」を宣言し、今後は「おもてなし」（「お」温泉・お城お遍路「も」物語「て」てづくり「な」なもし(方言)と笑顔「し」しき(子規・四季)・漱石)をキーワードに、松山商工会議所などと連携し松山全体でおもてなし力をたかめている。



【感想・岡崎市への反映】

- ・観光にはいろいろな市町が力を入れている。街の中を歩いてみると、多くの市民の方々や、観光客が街の中を回遊していて、活気が伝わってくるが、一部では寂しい通りもある、全体ではにぎやかな街である印象です。
- ・お城のある城下町では、天守より町中が見渡せるところが多く、本市のように都市計画がどのようになっているのか、考えさせられる。早急にお城の周りの建物高さを制限しないと、いずれは、お城を含む公園全体が、マンションに隠れてしまう(既に手遅れである)。

行政視察 報告書

報告者：田口正夫

視察日	令和5年2月8日（水曜日）
視察内容	観光行政について（高知県 高知市）
視察者	田口正夫

高知市は県庁所在地。山内一豊の入国以来、土佐の中心地として発展、県下最大の商業地を有する、幕末・明治期には坂本龍馬・板垣退助を始め多くの偉人を輩出している。人口約32万人、四国南部のほぼ中央に位置している、土地は全体的に低く、南・東部の湿地帯は海拔-1.0m、市中心部の県庁前が3.0mで、約7km²がゼロメートル地帯である。雨量が多く、殊に毎年夏から秋にかけて台風の襲来かたびたびあるが、北に四国山地、南に黒潮の暖流が巡る南国的な明るい都市である。



岡崎市の観光リーフレット等を渡す

観光行政については、高知市は県も含めてであるが「坂本龍馬」一本で売り込みを図っている。「いろいろあるは、何も無いのと同じ」という考え方のようであり、坂本龍馬にスポットを当てたイベントや施設の整備を継続していくとのことでした。

平成22年に「土佐・龍馬であい博」が開催されました、目標で来場者は65万人でしたが目標を大きく上回る92万人がの来場があった。また、龍馬博のパビリオンだけでなく、県内の観光施設の来場者数も前年度より大幅に増加した大河ドラマの放送を契機とした県内へ大きな経済効果をもたらした。高知県、高知市では、前記の盛り上がり継続するため、平成23年度は「志国高知 龍馬ふるさと博」を開催した。「龍馬ふるさと博」では、高知の「偉人」「食」「花」、そして自然やまち歩きなど「体験」をテーマとしたイベントを開催した。

【感想・岡崎市への反映】

・高知市には、「坂本龍馬・板垣退助・山内一豊」等の偉人がが多く、高知城・桂浜・はりまや橋・ひろめ市場等の観光施設も多くある。また、観光客のための宿泊施設もあり観光誘致ができている。

・本市も「どうする家康」による、集客が期待される、来市される方は多いかもしれないが、宿泊施設不足は否めない。今般コンベンションホール・ホテルが白紙状態になり、それに伴う施設整備もなくなってしまいそうです。今一度早急に検討をして行かなければならない。

